

# 総合学習（文化領域）

乗 富 章 子 小笠原 佳 子 中 川 岳  
 森 田 誠 沢 野 景 子 吉 川 昌 博  
 小 西 裕 一 松 下 浩 一 邑 井 吉 治

## 1 領域の目標

総合学習における「めざす子どもの具体的姿」を「共に生きていく社会や環境をよりよく築いていく子」と全体論でとらえている。それを受けて文化領域では、さまざまな文化に十分にふれたり浸ったりすることが、子ども一人一人にとって、人間として文化のよさや心の豊かさを感じ、さまざまな文化を尊重しながら生きていくことにつながると考え、以下の領域目標と低・中・高別のねらいを設け、子どもの姿の具体化を図ることにした。

さまざまな文化のよさにふれることで 豊かな生き方をしようとする態度を育む

低学年	身近な文化にふれ	それを楽しむ
中学年	さまざまな文化にふれ	それに親しむ
高学年	さまざまな文化にふれ	それを尊重する

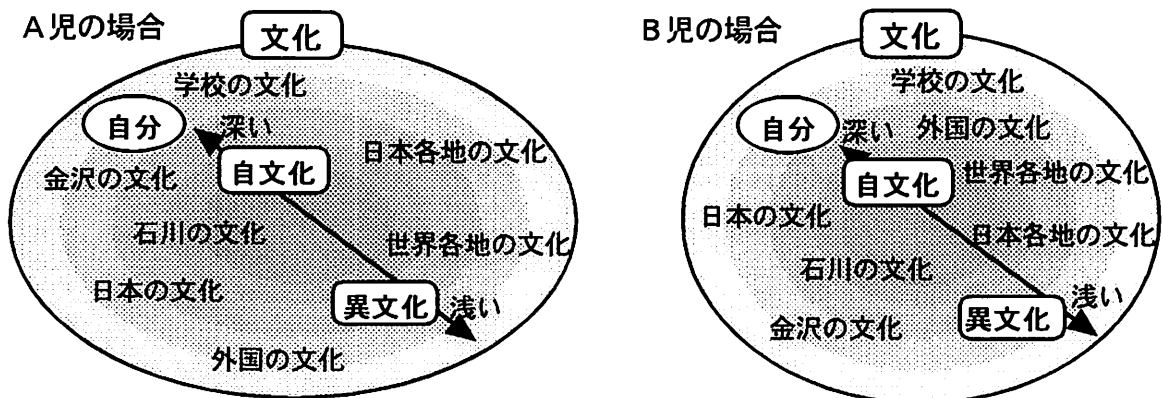
## 2 カリキュラムを創るにあたって

### (1) 取り上げる対象について

これまで文化を「自文化（主に自分の住む地域や自国の文化）」と「異文化（主に他の地域や外国の文化）」と分けて考えることが多かった。しかし自文化と異文化は、簡単に自分の住む地域や自国の文化と、他の地域や外国の文化という範疇で分けることができないものである。なぜなら、その文化と自分とのかかわりの深さによって分けられるものであって、かかわりの深さは個人によってちがうものだからである。

そこで文化領域では、これまでの自文化・異文化という範疇ではなく、自分とのかかわりの深さによって下図のように文化をとらえ、対象として取り上げていくことにした。またその際、さまざまな伝統文化が息づく町といわれる金沢の地域性を生かし、金沢の文化を素材として積極的に取り上げる単元も構想していきたい。

文化と自分とのかかわりの例



### 取り上げる対象

衣食住 生活習慣 工芸 芸能 年中行事 遊び 玩具 民話 方言 学校行事 などの文化

## (2) 単元を構想するにあたって

文化領域では、総合学習において留意する3点について、以下のように考え単元を構想することにした。

### ① 体験的活動を取り入れるについて

文化領域の体験的活動では特に大切にしたいことが二つある。一つ目は、子どもが文化に十分にふれたり浸ったりできることである。本物にふれ、本物の雰囲気味わうことが、人間として文化のよさや心の豊かさを感じながら生きることや、文化を尊重する心や態度の育成につながるからである。そこで体験的活動の中に、視覚・聴覚・味覚など五感を働かせたり、物を創ったりするような本物にふれる活動、本物の雰囲気を十分味わう活動を取り入れていきたい。

二つ目は、単元の中に全員が共通の体験的活動を行う場を設けることである。先にも述べたように文化領域で取り上げる文化は多岐にわたっており、子ども一人一人とそれらの文化とのかかわりにはかなりの違いがみられる。そこで共通の体験的活動を行うことで、子ども一人一人がその文化に対して自分なりの思いをもち、自分にとって意味ある活動の広がりや深まりを見通せたり、新たな体験的活動へと発展させたりすると考える。

### ② 学びの個性化を推進するについて

一つの文化のよさにふれたり浸ったりした子どもは、その子なりの思いをもってその文化へいろいろなアプローチをしたいと考えるであろう。また、その文化から触発された問題意識にもかなりの広がりが見られるであろう。それは、これまでその文化に接した経験の有無や深さに関係しているからである。したがって、子ども一人一人が追求する問題を解決していく方法においても同様のことが言える。このような子ども一人一人の追求する問題の個性化と解決する方法の個性化を保障・推進する単元を構想していきたい。またその際、子どもたちが意見交換できる相互交流の場を重視しつつ設定していきたい。

### ③ 学びの個性化に合わせて学習環境を整備するについて

文化領域で扱うことやものについて、子どもが自分の持った問題を解決するには、学校図書館にある書籍や教師集団だけでは、対応できないことは明白である。そこで、まずゲスト・ティーチャーとして、各界の専門家、外国人留学生、メール・ティーチャー（金沢大学の先生方）、保護者や地域の人々などの人材をフルに活用していく必要がある。また、参考図書、各種ビデオ、インターネット情報の閲覧整備などとともに、学校近くの児童会館や市立図書館などの施設の利用やそれを利用する時間も確保していきたいと考えている。

### 3 実践例 -6年-

(1) 単元名 なるほど・ザ・料理ワールド

(2) 目標 隣国である韓国の料理を味わったり、食事の仕方などを体験したりすることを通して、日本との違いや共通点に気づくとともに、他の地域や国々の食文化にも目を向け、意欲的に調べたり、交流したりしながら、それぞれの地域や国の食文化のよさを認めることができる。

(3) 指導にあたって

学習材について

日本にとって一番近い国である韓国。隣国でありながら、食事の仕方や料理などに大きな違いがみられる。例えば、食事の仕方を見ると、匙を中心にした食事であり、片膝を立てて食べたり、器を持たないで食べたりなど日本では不作法とされる食べ方が韓国では、正しい食事作法となっている。これらは、韓国の食器の素材や衣服の特徴から生まれた作法となっている。また、食事の内容を見てみると、1日3食必ずといってよいほど食卓にならぶものは、キムチである。このキムチは、唐辛子などをはじめ、さまざまな香味野菜、調味料、多種多様な副材料を取り合わせた栄養価の高い食品であり、韓国を代表する料理の一つでもある。キムチをはじめ、韓国の料理は全般的に辛口なものが多く、それは中国から伝わる「医食同源」という食事に対する考え方と冬の寒い気候風土とも関連しているのである。このように、日本とは大きな違いがみられる韓国の食文化を取り上げることは、子どもの興味・関心を喚起する上で格好の学習材といえる。

一方、子どもにとって、外国の料理といえば西洋のイタリア料理やフランス料理ならびにアジアでいえば中華料理になじみがあるが、韓国の料理にはあまりなじみがないものと思われる。あったとしてもキムチかピビンバなどで、「辛い」「にんにくの臭い」というイメージが強く、その中に使用されている食材の豊富さや栄養的なバランスなどに気付くものはほとんどいないと思われる。また、韓国の食事の仕方が、隣国でありながら日本と多くの面で異なっていることなどは知る由もない。

そこで、韓国の料理になじみのうすい子どもに、韓国出身のゲスト・ティーチャーを招いて、実際に韓国の食事作法を体験したり、韓国の料理であるキムチを試食したりという場を設ける。このような体験的な活動を取り入れることにより、韓国の料理や食事作法に対する自分なりのこだわりや疑問を持ち、ゲスト・ティーチャーから意欲的に食事の違いを聞き出すことだろう。また、そのことによって、韓国と日本との共通点や異なる点に気づくとともに、食文化に関する観点をも見つけることであろう。そこで得た観点を生かし、他の地域や諸外国の食事にも興味・関心を広げて調べることにより、他の食

単元計画 (総時数 6 時限+課外)

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
1 韓国の食事を知る <日本で一番近い国はどこ?> ・韓国 (大韓民国) ・韓国とは飛行機で1時間、船で3時間 <韓国の食事はどんなのだろう?> ・キムチやピビンバを食べているのかな ・食べ方は日本と同じで箸を使うのかな 韓国の食事を体験してみよう ①③ ◇食事作法のちがい ◇料理のちがい ◇食器のちがい ◇食材のちがい ・隣の国でもずいぶん違うのだな	
他の地域や国々の食事についても調べよう	
2 調べる計画をたてる ②③ <どこの食事を調べたいかな> ② ・沖縄や北海道など日本の他地域 ・ヨーロッパや中国などアジア諸国・・・ <どんなことを調べたいかな> ② ・料理について ・食事作法 ・食器について ・食材の違いについて <どうやって調べたらよいだろうか> ③ ・インターネットで ・本で ・料理店へ取材 ・外国の人に聞く	
3 調べてまとめる <どうやってみんなに伝えるか> ②③ ・新聞形式 ・クイズ形式 ・劇で	
4 各地域や外国の食事を紹介し合う ③ なるほど・ザ・料理ワールド交流会を開こう ・どこでも特有の料理や食べ方があるんだ ・その土地にあった食文化のよさがあるんだ	

文化の違いや共通点にも気づき、そのよさを認めていこうとする態度を培うことができる考える。

### 学びを広げ深めるために

子どもが韓国の食文化をはじめ、他の地域や世界の食文化に十分に浸り、その中からその国の文化のよさを感じ取ることができるようにするためにも、以下の3つのことを大切にしていきたい。

#### ①学習に広がりや深まりが見通せる体験的な活動を取り入れる

本単元では、韓国の代表的な料理をじっくりと味わうとともに、その食事作法なども実際やってみるといった本物体験を取り入れる。これらの活動を通して、韓国のほかの料理や食材の特色、食事の仕方の違いなどに問題意識を持ち、韓国のゲスト・ティーチャーに積極的にその違いを聞き出そうとするであろう。また、そこで得た料理や食材、食事作法などといった観点を生かし、他の地域の食文化に対しても、自分なりのこだわりを持って調べ活動を展開するものとする。

#### ②自分なりの興味・関心が生きる活動の場を設定する

子どもが食文化に興味を示す範疇は多岐に及ぶものと考えられる。例えば、料理方法や料理の種類をはじめ、食材の特色、食事のマナー、その国の気候・風土にいたるまで、さまざまな事象をテーマとして選ぶであろう。また、調べる方法もインターネットや図書で調べたり、各国料理店や外国の方に直接話を伺うなどいろいろ考えられる。そこで、調べたい対象や調べる方法など自分なりに合ったものを選択させた上で活動させていきたい。また、聞いたことや調べたことを自分なりに十分かみくだき、消化した上でまとめさせるように促していきたい。

#### ③調べ活動を保障するための学習環境を整備する

韓国をはじめとする世界の料理や食事のマナーなどさまざまなテーマを追求していく中で、子どもから取材したい料理店や外国の方、ならびに参考となる書籍やインターネット先など、要求してくるものと思われる。そこで、できる限り追求に応える資料先や施設など紹介したり、整備していくことで、子どもの調べ活動もさらに積極的になるものとする。

## (4) 本単元における授業の実際と考察

文化領域では、導入段階における体験的な活動が単元全体の学習を見通す上で、大きなウエートを占めている。その体験的な活動を基盤として、学びの個性化や学習環境の整備といった留意点がうまれてくるのである。そこで、前述した学びを広げ深めるための3つの項目にそって、授業の実際と考察を述べていくことにする。

### ① 学習に広がりや深まりが見通せる体験的な活動を取り入れる

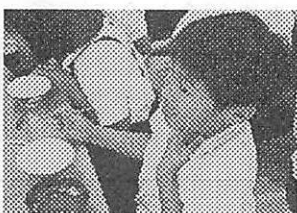
本単元では、学習に広がりや深まりが見通せる体験的な活動として、次の2つの活動を取り入れた。

ア、韓国の代表的な料理キムチやキムチスープを味わうこと

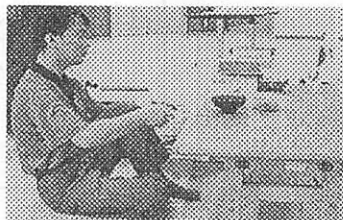
イ、韓国の食事作法をその国の人（孫さん）から教わり、追体験すること

これらの活動を取り入れることによって、日本と韓国との料理の違いや作法の違いなどに問題意識やこだわりを持つことならびに、他の地域や他国の食文化にも興味・関心を広げることを期待したからである。

実際、子どもは、キムチの辛さと食事作法の違いに驚きの声をあげていた。



うわあ～、から～い！



片膝たてて食べるの！？(孫さん)



鉄の箸は持ちにくいな！

韓国の料理や食事作法を体験した子どもは、次のような感想や疑問を授業の中で投げかけていた。

「すごく辛くて、のどがひりひりする。」

「今でも口の中全体が麻痺しているみたいだ。」

「どうしてこんな辛い物を毎日食べているのですか？血圧が高くなったりしないのかな？」

「鉄の箸は、重くて細くて扱いにくかった。」

「器を置いて食べると、こぼれそうになるから、食べにくい。」

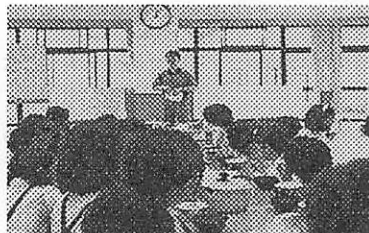
「箸とさじを交互に使い分けて食べるのもやりにくいなあ。」

このように辛さと食事作法の違いに興味・関心が集中し、韓国の孫さんに自分のこだわりや疑問などをぶつけていた。

孫さんの話に、子どもは真剣に耳を傾け、日本と韓国との違いのわけを聞き取った結果、次のようなことが分かった。

- ・片膝をたてる - 韓国の衣服が要因
- ・鉄の箸や匙 - 熱いものを扱うため
- ・器を持たずに食べる - 鉄製の器を使うため
- ・辛い物を食べる - 健康のため

子どもは、次のような思いを持った。



孫さんの話に聞き入る児童の様子

孫さんから聞いた話は、どれもこれもはじめて聞くことばかりでした。座り方も、食べ方も、使う道具も……。海をひとつ渡ると、こっちの常識が向こうの非常識になる。同じ地球人なのに、どうしてこんなにちがうのだろう。これから、もっと他の国のことも調べてみたい。

F夫の感想

私は、最初から韓国人は辛い食べ物を食べていると思っていたけれど、そうじゃなかったのですね。子供のときから、体によいから食べていたのですね。それに服そうによって座り方がちがうなんてすごいな。マナーは、ただのマナーでなくて、自分達がくらしやすいようにマナーがあるんだな。すごいな！

Y子の感想

F夫の感想を見てみると、韓国の食事体験は極めて驚きの連続であったとともに、食文化の違いに問題意識をもっていることが伺える。また、他国の食文化の違いにも興味・関心を広げようとしていることが分かる。一方、Y子の感想をみると、食文化の違いに驚きをもつばかりでなく、その違いの背景を知ったことへの喜びと韓国独特の食事作法のもつよさに感動していることが読み取れる。

このように、子どもの多くは韓国の食文化の違いに驚きを覚えるとともに、他の地域や他国の食文化に対しても興味を示し、調べてみたいという意欲が伺えた。このことから、韓国の食事を体験するという活動は、他の地域の食文化にまで学びを広げようとすることに有効に働いたことを意味するとともに、食文化の背景にも目を向けようとする動機を生む活動としても効果的であったと考えられる。

## ② 自分なりの興味・関心が生きる活動の場を設定する

自分なりの興味・関心が生きる活動の場として、次の3つの場を設定した。

ア、子ども一人一人のこだわりを引き出す場

イ、興味・関心別ごとのグルーピング

ウ、グループごとの興味・関心に沿った学習計画作り

まず、アの子どものこだわりを引き出す場では、韓国の食事の体験後、どんなことを調べたいのか、一人一人確認してみた。すると、他地域や他国の代表的な料理を調べたいという子と食事の作法の違いを調べたいという子が大多数を占めた。やはり、導入の韓国のキムチ料理とその食事マナーの印象が強烈であったことがその要因と考えられる。また、食材の違いや食器の違いを調べたいという子も少数ながらいた。この子たちは、韓国の鉄の箸や匙、ならびに唐辛子などの材料にこだわりを持っていたために選んだものと考えられる。

次に、どの地域や国の食文化を調べたいか聞いてみた。すると、世界地図帳をひっぱり出す子、あるいはサッカー・ワールドカップ参加国のリストをひっぱり出す子まで現れ、意欲的に自分の調べたい地域や国を選び出していた。子どもから出てきた地域や国は以下の通りである。

- ・アメリカ ・フランス ・イタリア ・オランダ ・ドイツ ・中国 ・インド

・オーストラリア ・北海道

それぞれ選んだ地域や国は、自分の行ったところのあるところであったり、親戚・知人などが在住する所であったり、自分の好きな料理の発祥の地であったり、と一人一人選んだ根拠は多種多様であり、個性に富むものであった。

イの場では、以上のように子ども一人一人のこだわりを整理していく中で、同じ興味・関心を持つ子が誰であるかお互い見つけることができたので、わりとスムーズにグループ分けを行うことができた。結局、全部合わせて14グループが誕生し、それぞれの興味・関心に基づいた調べ活動を行うことになった。

さらに、調べ活動を行う前に、次に示したようなプリントを配布し、グループごとに調べ活動の学習計画を立てることにした。興味・関心別のグループであったので、内容面のことや調べ方までつっこんだ話し合いが積極的に行われていた。

総合・文化領域「なるほど・ザ・料理ワールド」  
( )

1. どの食事を調べるか?

どこ  
オーストラリア

⇒

選んだわけ  
行ったことあるから  
日本とちがう感じがするから

2. その何を調べるのか?

代表的な料理  
食事作法について  
食材の特色について  
食器について  
その他 ( )

※調べたい内容に○をつける

3. 調べるメンバーはだれか?

料理ワールド調査隊メンバー  
堤さん、戸藤さん

4. どうやって調べるか? (調べる方法、調べる計画など)

インターネット、図書館、  
本、人 など

総合・文化領域「なるほど・ザ・料理ワールド」  
( )

1. どの食事を調べるか?

どこ  
ドイツ

⇒

選んだわけ  
何となく  
一番の思い出があるから

2. その何を調べるのか?

代表的な料理  
食事作法について  
食材の特色について  
食器について  
その他 ( )

※調べたい内容に○をつける

3. 調べるメンバーはだれか?

料理ワールド調査隊メンバー  
中田さん、野村さん  
伊藤さん、佐藤さん!

4. どうやって調べるか? (調べる方法、調べる計画など)

本  
インターネット  
自分の経験も  
活かす

ドイツを良く知る人にも  
聞いてみる  
バス会社(日本旅行  
会社)に聞く。

調べ活動の計画プリントの実際

興味・関心別のグループであったので、内容面のことや調べ方までつっこんだ話し合いが積極的に行われていた。

調べる計画がたった時点、ならびに調べ活動が始まった時点での子どもの日記を次に紹介する。

「なるほど・ザ・料理ワールド」

今日、僕達は、どこの国の料理を調べるかを決めました。ぼくらは、イタリアをしらべることにしました。イタリアといえば、パスタ。それから、イタリアワインも有名らしいです。

少し調べてみたんだけど、イタリアのワイン輸出量は、なんと世界第2位で、年々売り上げ 高は上がってきているようです。このように、食べ物・飲み物の中でも、パスタやワインなどをとくに力を入れて調べていこうと思います。そして、もっと輪を広げて、くらしのようすや行事なども調べられたらいいなと考えています。これからの調べ活動が楽しみです。

T夫の日記

「インド」

今日、インドことを調べてみました。それで驚くべきことがわかりました。右手は清潔、左手は不潔なのです。食事中でも左手は絶対使わないし、インドにはトイレトペーパーがなく、すべて左手でふくそうです。右手で食べるなんて驚きました。食事のマナーだけでなく、代表的な料理とか食材についてもどんどん調べていきたいと思います。

N男の日記

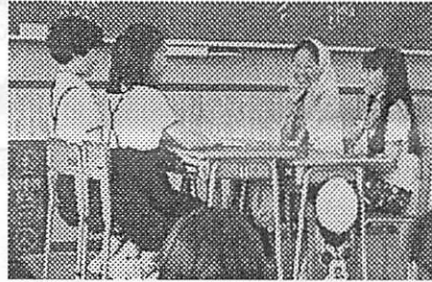
子どもの日記からも調べ活動に対する積極的な意欲が十分伺える。このように、調べる対象や

国などを子どものこだわりの中心にすえ、興味・関心別のグループにわけながら、調べる方法も自分たちに合った方法で取り組ませたことが、子どもの学習意欲を生み出したのではないかと考える。

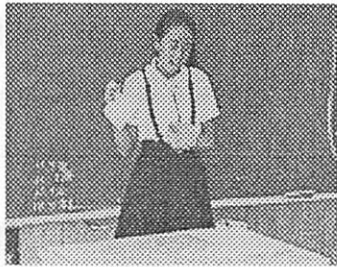
子ども一人一人の自主的な調べ活動が展開された後の発表交流会では、実に多種多様な内容の発表が繰り広げられた。例えば、実際にインドのチャパティを作ってきたり、中国のアメを作ってきたり、劇で発表するグループでは、インドの衣装を身にまとして演技したりなど、本物体験を重視した活動が見られた。これは、導入における韓国の食事の直接体験の影響があったものと考えられる。また、オーストラリアへ行ったことのある子は、実際の食事の写真を提示しながら、自分の食体験を踏まえた上で説明していた。



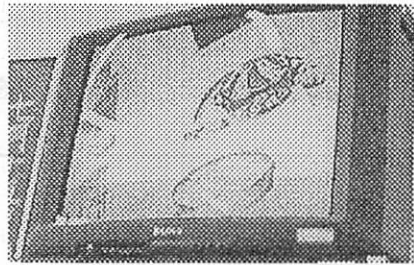
これがインドのチャパティだよ！



インドの衣装似合うかしら！？



中国のアメを作ったよ！



この写真はオランダの食事だよ！

以上のことから、子ども一人一人のこだわりを引き出し、興味関心別のグループに分け、それぞれのこだわりを大切にしながら学習計画から調べ活動にいたるまで取り組ませることによって、調べる地域や国、内容などに多岐にわたる広がりや深まりが見られるようになったと考える。それとともに、自分に合った調べ方や自分なりに工夫した表現の仕方をする子が多く見られたことから、自分なりの興味・関心が生きる活動を引き出すことができたのではないかと考える。ただ、もう少し時間的な余裕があれば、調べ活動の途中で中間報告会を設け、情報の集め方の工夫や調べ方・発表の仕方などの工夫などを交流し合うことによって、それぞれの調べ活動や発表の表現などに広がりや深まりを持たせることができたのではないかと考える。

### ③ 調べ活動を保障するための学習環境を整備する

子ども一人一人の調べ活動を保障するための学習環境を整備するために、次の3点に留意した。

- ア、コンピュータのインターネットの検索先を例示したこと
- イ、参考図書の紹介したこと
- ウ、ゲスト・ティーチャーの連絡先を伝えたこと

子どもが自主的に選んだテーマをもとに調べ活動に入る際に、インターネット先を大使館や食事のマナーというようにつながりやすい検索項目をあらかじめ指示しておいた。また、参考図書なども、本校には外国の地理・風土や食事に関する図書が豊富に揃っており、どのコーナーの図書をみればよいかを知らせておいた。さらに、料理店や外国の人の連絡先は、電話帳を用意したり、金沢国際交流財団などの連絡先等を伝えたりしておき、その後の活用はまた子供たちの自主性に任せることにした。

さて、調べ活動に入ると、子供たちはインターネットで調べるグループと図書で調べるグループ、それと家から持ってきた資料をもとに調べるグループに分かれた。また、それぞれのグループ内でも、インターネットで調べる子と図書で調べる子などと分担して活動するグループも多かったようである。調べるテーマが明確だったことや検索先をある程度例示してあったためか、いつ

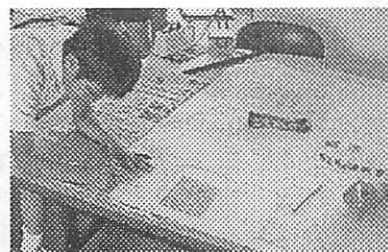
もなら「検索しても見つからない！」という声が出るのだが、今回はインターネットによる情報収集にあまり困惑した風景は見られなかった。



インターネットで調べる様子



参考図書で調べる様子



調べたことをまとめる様子

調べ活動中の子どもの日記を紹介する。K子の日記から、グループ内で役割を分担し、協力して調べていこうとする姿勢が感じられる。実際、子どもたちは、どのグループも実に和気あいあいとした雰囲気の中で協力して調べ活動を行っていた。

#### 「調べ活動」

今日、「ドイツ」グループは、調べ活動がすごくはかどりました。どうしてスムーズに進んでいるのか、教えてください。

##### 基本その1

役割分担していること。私のグループは5人いるので、2人は本で調べて、3人はコンピュータのインターネットで調べています。それをまとめるときも分担して行います。

##### 基本その2

協力とチームワークですること。調べたことをわかりやすいように絵や文にまとめるのをみんなで話し合っけてまとめていく。

#### K子の日記

以上のように、学習環境を整備することによって、子どもは自分なりにやりやすい調べ方を選びながら、安心して調べ活動に取り組むことができたと考えられる。しかし、ゲスト・ティーチャーを生かして調べるグループは、今回一つもみられなかった。それは、1学期末という時間的なゆとりのない中であつたためと、学校を飛び出して外部の人と自らふれあう機会を今まであまり取り入れてこなかったことが原因と考えられる。今後、学校という狭い枠を飛び越えて、地に住をおろした活動が生まれるように支援していきたいと考える。

最後に、本単元を終えての子どもたちの感想を紹介する。

みんな同じ地球に住んでいるのに、食事のマナー、食べ物、飲み物など全然違うのにびっくりした。熱い国は辛い者やスパイスなどをよく使ったりして、共通点があるのだなと思った。それから、料理は、その国の機構や風土によって生み出されているんだなあ。

Y男の感想より

いろいろな食文化を知って、日本と全く違った文化の国があつたりして、びっくりしました。でも、どの国でも共通しているのは、その料理をつくるためにいろんな工夫をしていることがわかりました。

N子の感想より

日本と同じところや違うところがあつておもしろかったです。それぞれの世界各地の個性をみたいなものを感じました。もっともっと他の国も調べてみたいなあ。

I子の感想より

これらの日記を見ても分かるとおり、他国の食文化の違いだけでなく共通点にも気づくとともに、その背景にある気候・風土にまで目を向けようとする子がでてきている。また、これからは他国の食文化にまで興味を示し、調べていこうという意欲さえ伺える。

本単元全体を通していえることは、食文化の違いや共通点、ならびにその背景にまで気づいたということから、その食文化を尊重しようとする態度も涵養できたのではないかと考える。